

## 平和 木戦を世界にむけて訴える

## 学徒出陣「60周年にあたって」

日本戦没学生記念会(わだつみ会)元学徒兵有志

アジア太平洋戦争のさなか、1943年9月、大学・高校・専門学校にたいする在学中の徴兵延期が停止され、満20歳以上の約10万の学生は直ちに軍隊に入ることが義務づけられました。理科系の学生は入営延期が認められましたが、文科系の学生は12月上旬には陸海軍に入営しました。当時、日本の植民地であった朝鮮・台湾の学生もこれに準じ、やがて特別志願兵制によりほぼ強制的に入営させられました。これが「学徒出陣」であり、今年はその60周年にあたります。

1931年、中国の東北地方(旧満州)への侵略から始まった「事変」といつ名の戦争は、1941年の米英への宣戦布告によりアジア太平洋の全域に広がりました。1943年になると、日本軍はガダルカナル島、アッツ島と敗北を重ね、敗戦への途を急速にたどりつつあり、兵士となることは死を覚悟しなければならぬ状態でした。学徒兵は学問への断ち難い憧憬、肉親との別れ難い思い、戦争と軍隊生活への批判と不安、そして「民族共同体」の一員としての義務のはざまに苦悩と葛藤を続けました。

入隊をひかえた戦没学徒兵の一人はこう書き遺しています。

「日本人の死は日本人だけが悲しむ。外国人の死は外国人のみが悲しむ。どうしてこうなければならぬのであろうか。なぜ人間は人間で共に悲しみ喜ぶようにならないのか。平和を愛する人。……私にはこんな言葉が痛切に感じられてならない。」(新版 きけ わだつみのこえ』275ページ)

あるいはまた中国戦線で戦死した学徒兵は書き遺します。

「中沢隊の一兵が一支那人(中国人)を岩石で殴打し、頭蓋骨が割れて鮮血にまみれ地上に倒れた。それを足蹴にし、また石を投げつける。見るに忍びない。……高木少尉の指図らしい。冷血漢。罪なき民の身の上を思い、あの時何故後れ馳せでも良い、俺はあの農夫を助けなかったか。自責の念が起る。……俺の子供はもう軍人にはしない、軍人にだけは……平和だ、平和の世界が一番だ。」(同書、90ページ)

日本戦没学生記念会(わだつみ会)は、1949年の戦没学生の手記をきっかけにわだつみのこえ』の刊行を記念して、翌年の1950年に設立されました。会は、戦死者の無念

に心えるには戦争を二度とくりかえさないとしかなないという趣旨から、半世紀にわたって平和運動を続けてきました。会はこのようにして学徒兵の死に由来する団体ではありませんが、戦争の悲劇は国民全体のものであると考え、学徒兵の死を戦没青年全体の死とともに考える立場にたつて、戦争体験を思想化し、絶対平和をめざす市民の平和団体として今日にいたっております。

朝鮮戦争(1950年代)、ベトナム戦争(1960年代)と日本の軍備は平和憲法に違反して進められ、自衛隊と称する軍隊は世界有数の軍事を保有するまでに至り、ついに1990年の湾岸戦争には海上自衛隊の掃海艇がペルシャ湾に出動しました。私たちは1993年「学徒出陣」50周年に当たり自衛隊の海外派兵に抗議しました。さらに一昨年の「ニューヨークでのテロ以来、情勢は急変しました。アメリカはただちに報復行動を開始しアフガンを侵攻占領しました。昨年9月には証拠に乏しいまま核生物化学兵器開発を理由にイラクへの先制攻撃を発表し、フセイン政権の打倒を目標とする戦争政策を強化し、これを悪の枢軸」に対する「正義の行動」であると正当化しております。日本政府はこのアメリカに追隨し一昨年は海上自衛隊の給油艦をインド洋に派遣し、ついで昨年最新兵器を装備したイージス艦を出動させました。

また本年1月15日に小泉首相は突然、靖国神社を参拝しました。これは大日本帝国の侵略行為にたいする国民の自責と反省の念を無視するものであります。一昨年8月の靖国神社参拝のとき日本戦没学生記念会は抗議声明を行い、他の平和団体と共同行動を行いました。昨年の12月1日(学徒出陣の日)では「アメリカの先制攻撃はゆるさない」と不戦集会を開きました。

戦没した学徒兵は、新しい未来を信じ、愛する家族や同胞にも語れなかった胸の内」を秘めながら散っていきました。私たち生き残った旧学徒兵には、彼らの心情と無念を背負って、これを後世に伝える義務があります。学徒出陣60周年「の節目にあたり、私たちは、あえてここに平和と木戦の固い意志を世界にむけて強く表明し、併せて「わたつみのこえ」に真摯に耳を傾けるよう訴えます。

2003年2月20日

日本戦没学生記念会わたつみ会(元学徒兵有志)

畔上 知時	石井 茂	一瀬 智司	岩間 宏文	大島 孝一
大杉喜久男	大塚 雅彦	尾崎 武男	小澤 一彦	鎌田榮太郎
北川 信	木邨 健三	熊谷 直孝	蔵 正治	見理 文周

澤口  
戸田  
横山

進  
隆  
健

鈴木  
浜林  
吉田  
正夫  
義信  
実

高畠  
三木  
渡辺  
正則  
芳郎  
平

谷  
湊

栄  
良蔵

手塚  
山下  
久四  
肇  
(五十音順)